岡山・足守に新工場

田中鉄工所　9月稼働

航空機部品加工を集約

品質検査体制も強化

精密機械加工の田中鉄工所（総社市下林）は、岡山市北区下足守に国内3カ所目となる足守工場を新設する。同社は米ボーイングの新型機「787」用のエンジン部品を製造。今後も成長が見込まれる航空機分野の部品加工を新工場に集約し、品質検査体制も強化する。3月に着工し、9月の稼働を目指す。

（長田憲司）

航空機部品を加工する田中鉄工所の本社工場

工場跡地約6千平方㍍を取得し、鉄骨平屋建設。大型の5軸マシニングセンター（MC、複合工作機）1台と、縦旋盤2台を設置する。いずれもチタンやニッケル合金など硬くて削りにくい「難削材」の加工に対応。切削時の熱を抑えるよう冷却水を高圧で噴射したり、傷んだ工具を自動交換する装置を備える。

室温を20度に保つ検査室に高精度の3次元測定機を導入。品質検査を担当する専門部署を設ける。熱による素材の変形を防ぐため、工場全体にも空調を効かせる。投資額は土地、建物を含めて約6億円。

同社は本社工場と倉敷工場（倉敷市栗坂）で、787用エンジンの回転部品を加工している。ボーイングは787の生産機数を2016年に月10機から12機、19年には14機へと引き上げる方針を示しており、増産に備える。

また、欧米メーカーが低燃費の新型エンジンを量産する動きもあり、これまで手掛けていなかったエンジンケースなどの受注も目指す。3年後には新工場の規模を従業員20人、年間売上高2億5千万円に伸ばす計画。

田中秀明社長は「厳しい品質管理を求める航空機業界のニーズに応え、関連部門の売り上げ比率を現在の1割から2割に増やしたい」と話している。

同社は岡山県内の中小企業でつくる航空機部品の共同受注グループ「ウイングウィン岡山」の加盟企業。他に鉄道車両や建設機械、半導体製造装置などの部品も生産している。1987年設立。資本金1千万円。従業員70人。売上高約13億円（13年8月期）。